

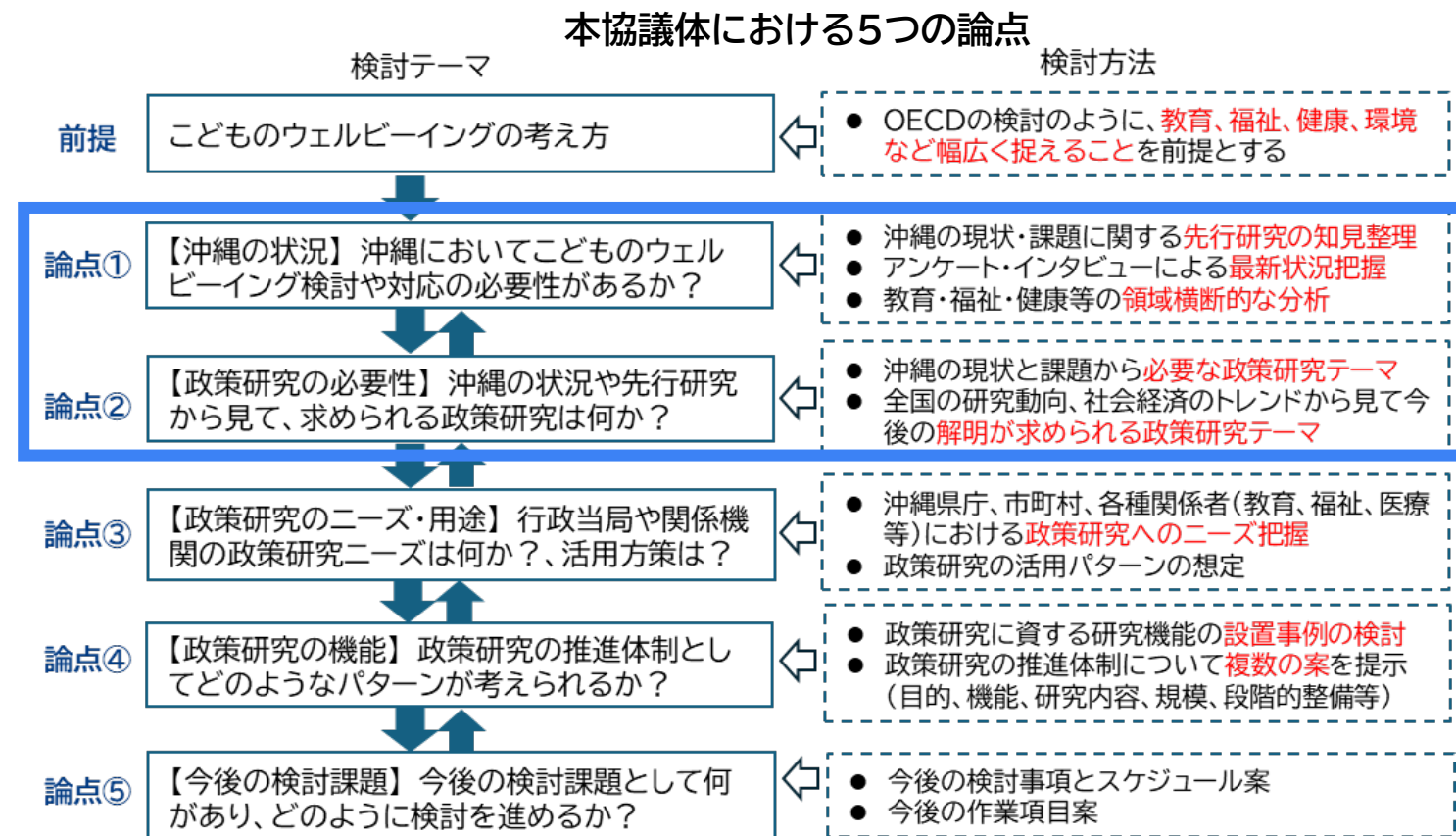
本日の討議事項、前回の振り返り等

目次

1. 検討の進め方	3
2. 本日の議論の流れ	4
3. 第1回協議体でのご意見	5
4. ウェルビーイングの考え方	6

1. 検討の進め方

- 本協議体の論点のうち、論点①として、沖縄においてこどものウェルビーイング検討や対応の必要性を「ウェルビーイングの考え方」の観点から把握する。
- 論点②「政策研究の必要性」に関連し、こどものWB実現のために行政、現場、家庭、地域において求められる知見、求められる政策研究についてのご意見をいただきたい。



協議体の開催スケジュール

各回 (日程候補)	各回の検討テーマ、議題(論点番号は右図と対応)
第1回 (令和7年 6月25日)	事業の目的を踏まえ、ウェルビーイングを導入する意義を明らかにしたうえで、協議体での本年度のゴールを共有する。(前提)
第2回 (令和7年 8月29日)	既存調査・研究から見た沖縄のこどもの現状・課題を踏まえ、沖縄におけるウェルビーイング導入の必要性を明らかにする。(論点①②)
第3回 (令和7年 10月27日)	全国の政策研究課題や政策研究テーマの例を踏まえ、解明が求められる政策研究を明らかにする。(論点②)
第4回 (令和7年 12月12日)	第3回の事例に追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。(論点②③)
第5回 (令和8年 2月中旬)	これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。(論点④⑤)

2. 本日の議論の流れ

- 政策研究の推進体制にて対応することとなる政策研究テーマを検討する。
 - 沖縄のこどもの課題に対しウェルビーイングの考え方を導入することで、ウェルビーイング検討やその必要性を共有する。
解決できていない現場でのお困りごとは、政策研究テーマになり得る。

議題(2)
沖縄におけるこどもと大人の目指すべき関わり方について
こどもが大人に伝えたいこと(沖縄県庁講演)
ー「こども・若者の意見表明」よりー

資料3

- 沖縄県庁における過年度調査を踏まえ、沖縄における「こども・大人」の目指したい姿の方向性を協議体内で共有する。
- 「こども意見表明」から、こどもが大人に期待することを把握し、構成員としての対応策や現場の課題を意見交換。

議題(3)「ウェルビーイングの考え方」の導入意義
ー沖縄のこどもを取り巻く現状・考えられる課題を踏まえてー

資料4-1,4-2,4-3

「ウェルビーイングの考え方」の導入。
多層的に課題にアプローチする必要性を共有。

- 文献調査から得られた沖縄のこどもの課題を共有。
- 「ウェルビーイングの考え方」の導入によるメリット(事務局案)を共有。その後、構成員にてその他メリット、成功事例、現場でのお困りごとなどを意見交換。

議題(4)沖縄におけるこどものウェルビーイングに関する政策研究テーマ(例示)

資料5

政策研究テーマを深掘りし、「政策研究の推進体制の在り方」の検討に活用する。

3. 第1回協議体でのご意見

こどもと大人の関わり方

- こどもと関わるうえで、沖縄のこどもたちにどんな若者・大人になってほしいのかをしっかりと考えていきたい。
- こどもに携わる大人の意識が低いと感じる。関わる人の意識を変えることが重要。そのあたりの調査、取組があるとよい。
- 沖縄では地域の子は地域で育てるという言葉があるが、どれだけそういった地域の大人がいるかという点では、こども会やPTAなどの地域団体も減少して壊滅するかもしれない。
- こどもにとって最大の環境は親・家庭。家庭・保護者に対する支援を充実させる必要あり。学校現場でソーシャルワーカーと取組を行っているが、限界がある。
- 中高生から児童養護施設に入るこどもたちが非常に多くなっている。こどもたちとの信頼関係が必要であり時間のかかる仕事だが、職員の離職率が高い。

こどもの成長、長期的にみたWBの視点、キャリア形成に係る問題

- 今困難な状況にある人がどういうライフコースとなるか。苦しんでいる成人した人、若者はどういうこども時代を送ってきたか。
- こどもは成長が重要。こうだったらこうなるといものを研究してほしい。
- 沖縄の子どもは進路未決定のまま高校卒業してしまうという問題がある。

こどもに関わるおとな、支援者のWBの向上の必要性

- 関わるおとなの幸福度が上がると子どもの幸福度もあがる。／保護者のウェルビーイングがないといけない。／大人のウェルビーイングもしっかりと。
- 子育てを親任せになるのではないかと危惧。その辺の提言がほしい。

サポートの仕方の改善方策

- 困りごとがあったときに相談する体制ができていない。地域や関係者に知られる懸念もあり、困った状態をなかなか感知できない。
- 医療費が無料でも利用されていないのは保護者が休めない、給料が減る、交通費がかかるから。
- 健診での再検査で受診していない人の割合が沖縄は高い。どういう背景の人たちかを、福祉とつなげた分析をするよい。
- 医療だけでなく身体的、精神的、社会的なサポートが必要

サービス供給体制、関係機関の連携、職員の人材育成、ウィンウィンの仕組構築のために

- 職員がいっぱいいっぱい人手が足りない。
- 学校現場をどうサポートするかが重要。／居場所と学校が繋がっていない。
- 学生ボランティアの活用等により、みんながちょっとずつでウィンウィン関係をつくっている。
- 人材育成も重要。支援員の充実のためにどういう方を採用するのか、どう研修していくのか。

4.「ウェルビーイングの考え方」

●「ウェルビーイング」とは

- 「ウェルビーイング」: 身体的・精神的・社会的に満たされた状態を指す。(WHO定義)
- 「ウェルビーイングの考え方」: こどもの「ウェルビーイング」に影響を与える要素を整理すること。
「こどものウェルビーイングの考え方」では、関連する要素が多層的に表現されることが多い。

- 例) こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD) *

*OECDでは、「ウェルビーイング」を中心に据え、それに関連する要因(こどもの活動、家庭環境、学校環境、地域社会等)を体系的に整理したものを、「こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク」と定義している。

● 沖縄におけるこどものウェルビーイング向上の実現に向けて

- 沖縄のこどものウェルビーイングに関連する要素を体系的に整理し、多方面からアプローチすることで、沖縄におけるこどものウェルビーイング向上の実現を目指す。
- 要素の整理にあたっては、以下の2方向からのアプローチが有効と考えられる。
 - 沖縄のこども・文化の残したいところ、よいところ、目指すところ
 - 沖縄のこどもを取り巻く課題

沖縄における「こどもと大人の目指すべき関わり方」について

- 議題(2)での議論の目的: 沖縄における「こどもと大人の目指すべき関わり方」について、構成員同士の共通理解を深め、「今後も残したい沖縄の良いところ・文化*」、「それでも残る課題」を踏まえ、必要な政策研究テーマを検討すること。

*例) ゆいまーる: 「相互扶助」「助け合い」を意味する

「こども・若者の意見表明」(沖縄県庁による講演)から、こどもが大人に伝えたいこと・応援(支援)してほしいことを把握

資料3



「今後も残したい沖縄の良いところ・文化」、「それでも残る課題」を踏まえ、「こどもと大人の目指すべき関わり方」について議論

例) 沖縄のこどもの自己肯定感は全国と比べ高いものの、中長期的視点では大人が導く要素もあるのではないか
(夢に向かって努力する、一定の学力を身につける、大人になっても自己研鑽できる…)



必要な政策研究テーマを検討 ※協議体における議論から、事務局にて検討

沖縄における「こどもと大人の目指すべき関わり方」について

(参考)

沖縄全体の文化・価値観

- 全国と比べた沖縄の特徴
- 都市部とそれ以外の違い
- 従来の特徴と最近の変化
- こどもや家庭のタイプによる違い
- 外国人、移住者等の影響
- 「ゆいまーる」の文化
- 「なんくるないさ」の文化
- 競争意識のない文化
- ...

こども自身の視点

- 自己肯定感の高さ(「沖縄子ども調査」より)
- 「私は価値のある人間だと思う」
沖縄65.0% 全国44.9%
※令和4年度高校生調査、「そうだ+まあそうだ」の合算
- 「私は努力すれば大抵のことができると思う」
沖縄72.3% 全国60.5%
※令和4年度高校生調査、「そうだ+まあそうだ」の合算
- 「自分の将来が楽しみだ」
【小5】沖縄53.3% 東京45.2%
【中2】沖縄37.2% 東京26.9%
※令和6年度小中学生調査、「とてもそう思う<とても思う>」の割合

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ